

HOTEL
VIVA VIVA

令和5年次大学地域連携活動支援事業

日光門前通りにおける コトと町並みを結ぶ「設い」のデザイン活動

■ 学生代表者

宇都宮大学

大学院地域創生科学研究科
社会デザイン科学専攻(建築)

修士2年
修士1年

齊藤詩織
飯村昂裕
櫻井颯哉
中澤佑希

■ 指導教員

宇都宮大学
宇都宮大学

助教
講師

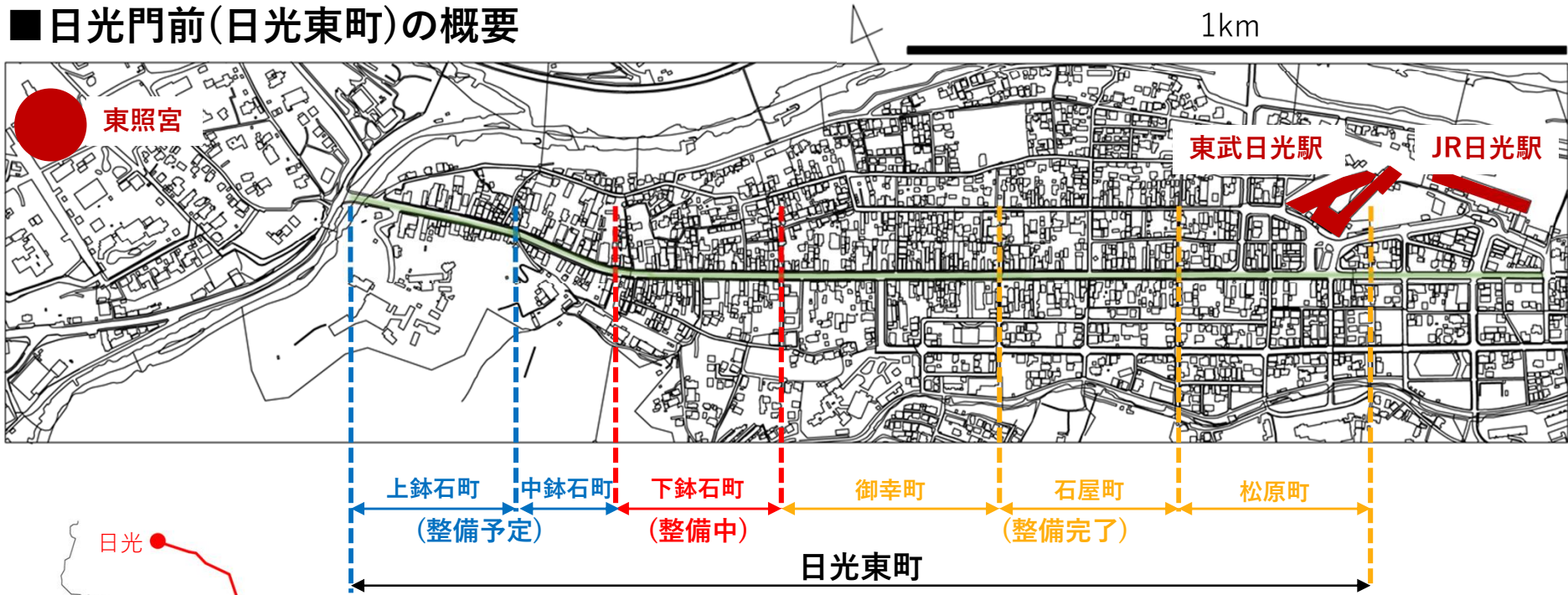
大嶽陽徳
遠藤康一

■ 連携する地域団体

NPO法人 日光門前まちづくり
日光東まちづくり推進委員会

岡井健
阿久津新平

■日光門前(日光東町)の概要



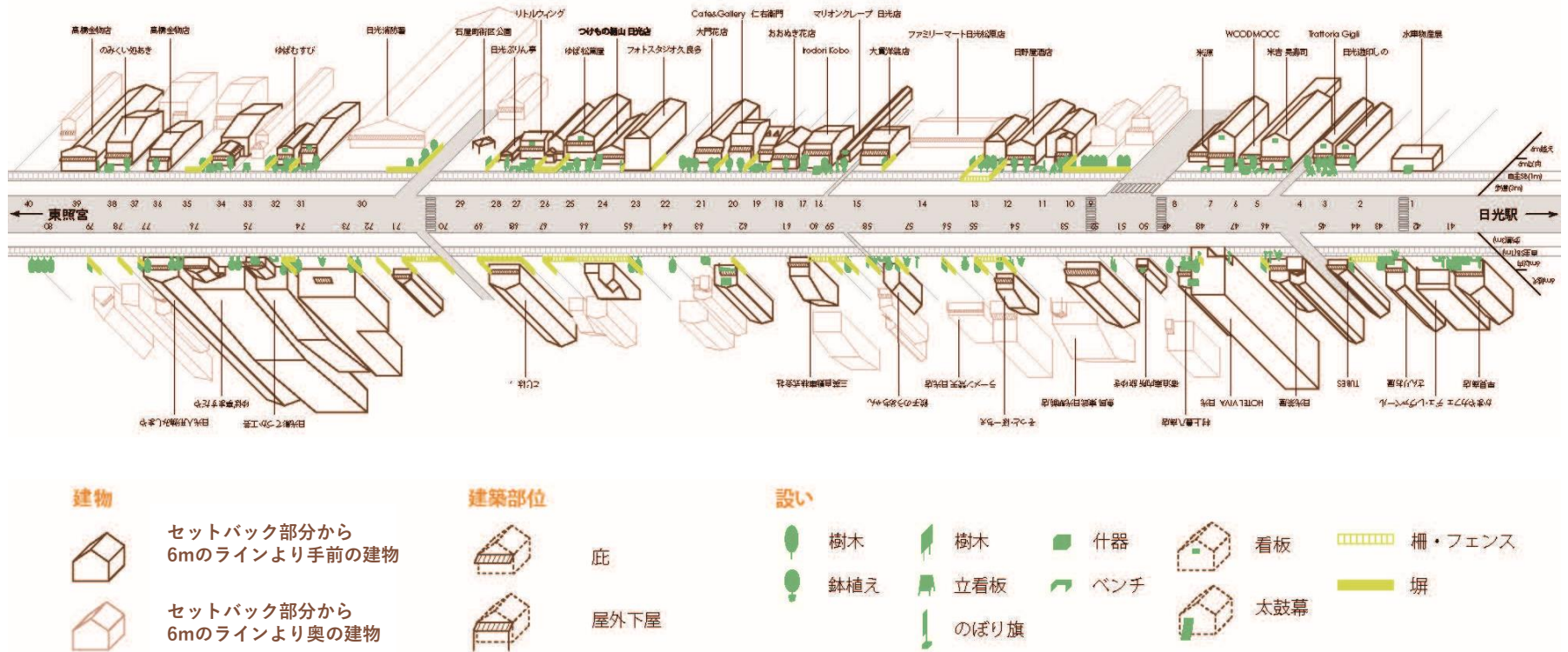
- 日光街道の終着点にあたる宿場町
- 日光門前町では平成15年から日光街道の道路整備が行われている(現在6区間中4区間目)
- 道路整備を契機とし、住民主体のまちづくり活動も行われている

■本活動の目的

現在は、伝統的な町家や商家が多く残る社寺側の3町内においても道路整備とまちづくり活動が進んでおり、魅力あるまちづくりを行っていく必要がある。一方で、整備が完了した区間では町並みの連続性や活用といった観点に関する課題も多い。

■本活動の目的

町並みの調査



具体的には…

- ・建物前面が揃っていないことによる**町並みの連続性の希薄化**
- ・商店の減少と住宅の増加による**営みや活動の希薄化**

■本活動の目的

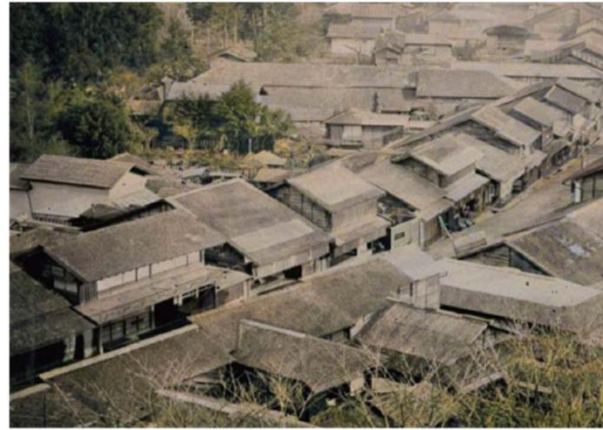
本活動では、整備が完了した区間から課題を発見し解決することで、整備完了区間の町並みの修景と活用を図るとともに、今後のまちづくり活動を行っていくための知見を得る。

■本活動で注目している“設い”について

整備完了区間の町並み修景と活用＝町並みづくりとコトづくりのために、本活動では“設い”に注目している。



設いの例



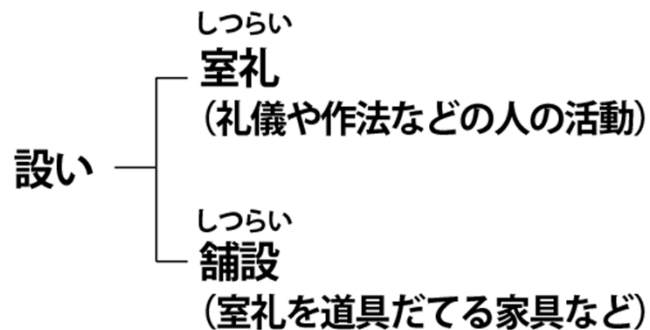
130年前の日光の写真



市の絵図

“設い”とは、、、

建築未満のデザイン(家具や道具)



日光における
町並み(ハード)と営み(ソフト)の歴史

通りでの市(いち=人の活動)が開催
仮説の小屋(テント)の下に棚を設える



小屋が常設化、店蔵の下屋(建物)になる



道路整備や建物セットバックによる下屋の撤去



改めて、人の活動を受け止める“設い”が重要

■コトと町並みを結ぶ“設い”のデザイン



建物前面の空間



設いの様子

建物前面の空間が広い
(1mセットバック区間があるため)

×

設い
(室礼+舗設)

- 商いや暮らしのための私有地
 - 歩道と連続した公共的空間
- ↓
- 半公共的空間 (商いや暮らし+滞在)

- 商いや暮らし、滞在という活動とともに、町並みも整えることができる
- 家具などの建築未満のものなので、建物が竣工した後も制作しやすい

■本活動のスケジュール

実施内容	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
令和4年度【済み】 「設い」の設計ワークショップ、設計提案、現地調査	参加プレイヤーの掘り起こし	→	設計ワークショップ	図面作成			地域報告会 学科報告会	図面修正
(地域団体の役割) 「設い」の設計ワークショップ補助、設計指導、現地調査補助	参加プレイヤーに関する情報提供	→	設計ワークショップ補助	施工技術の指導			地域報告会の準備	
令和5年度 「設い」の製作、設置実験、その調査	敷地の決定	「設い」の設計・製作	→	設置実験とその調査（期間をめて2回以上）	の決定	設計の修正	地域報告会 学科報告会	設計の修正
(地域団体の役割) 「設い」の製作補助、設置実験補助	敷地の決定	「設い」の設計・製作補助	→	設置実験の補助、調査補助			地域報告会の準備	

提案書記載のスケジュール

○本活動で主に取り組んだこと

① 設いのデザイン

- ・町並みとコトを結ぶ設いの設計
- ・社会実験をして確かめる（3月）

そのために



② 体制のデザイン

- ・誰がお金を出すのか？
- ・誰がつくるのか？
- ・誰が所有・管理するのか？



誰にとっての課題なのか？ということに基づいて、どのような体制をつくるのかといったことが重要

■体制のデザイン(プレイヤーのネットワーク)

[以前]

まちづくり体制が
活発に活動しない



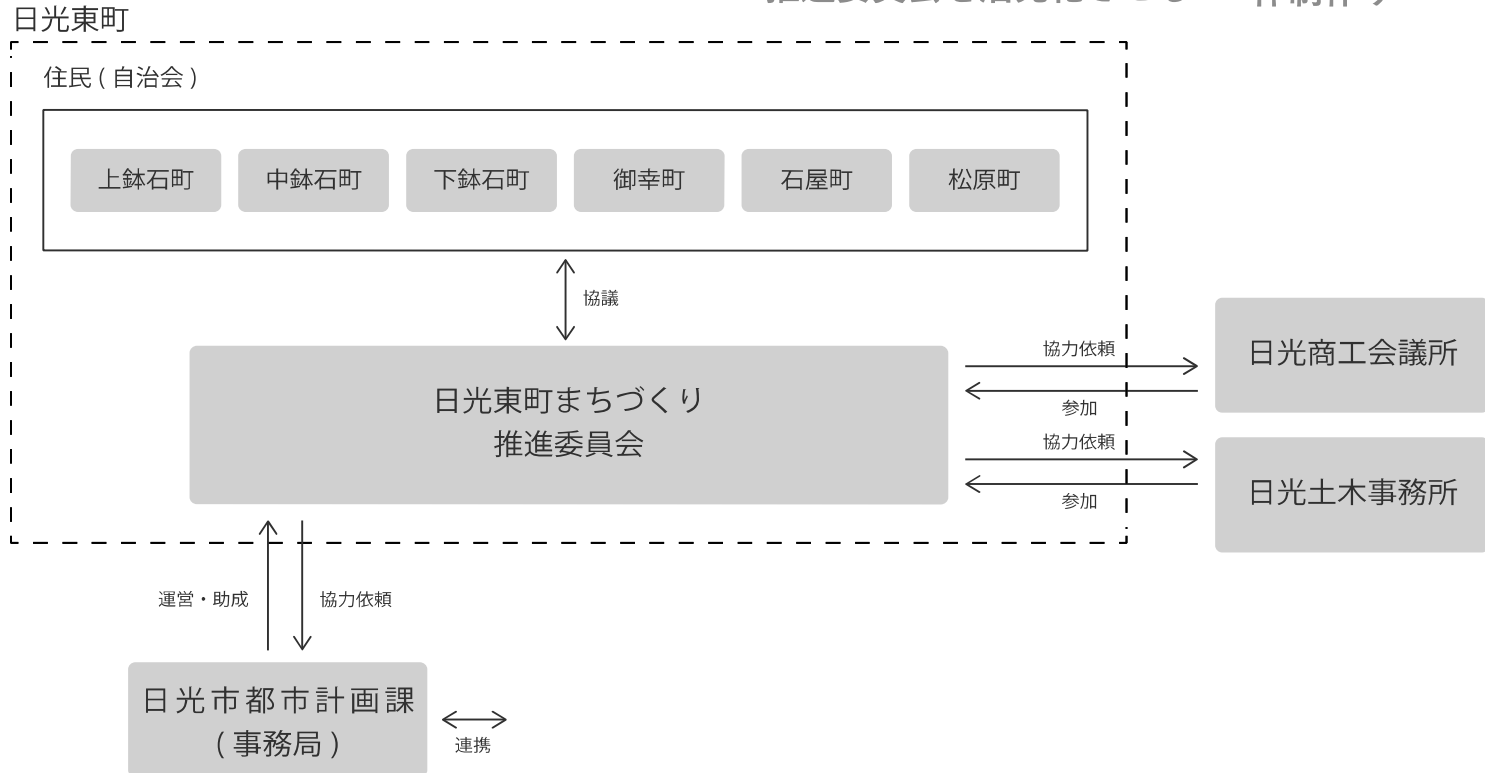
[今年度から]

①

ワーキングの立ち上げ = まちづくりの実働部隊
として活躍を開始
→ 推進委員会を活発化させる

②

日光木材業協同組合
と協働の設け製作の
体制作り



これまでは、日光東町まちづくり推進委員会などがあつたが、活発に活動がなされていなかった。

■体制のデザイン(プレイヤーのネットワーク)

[以前]

まちづくり体制が
活発に活動しない



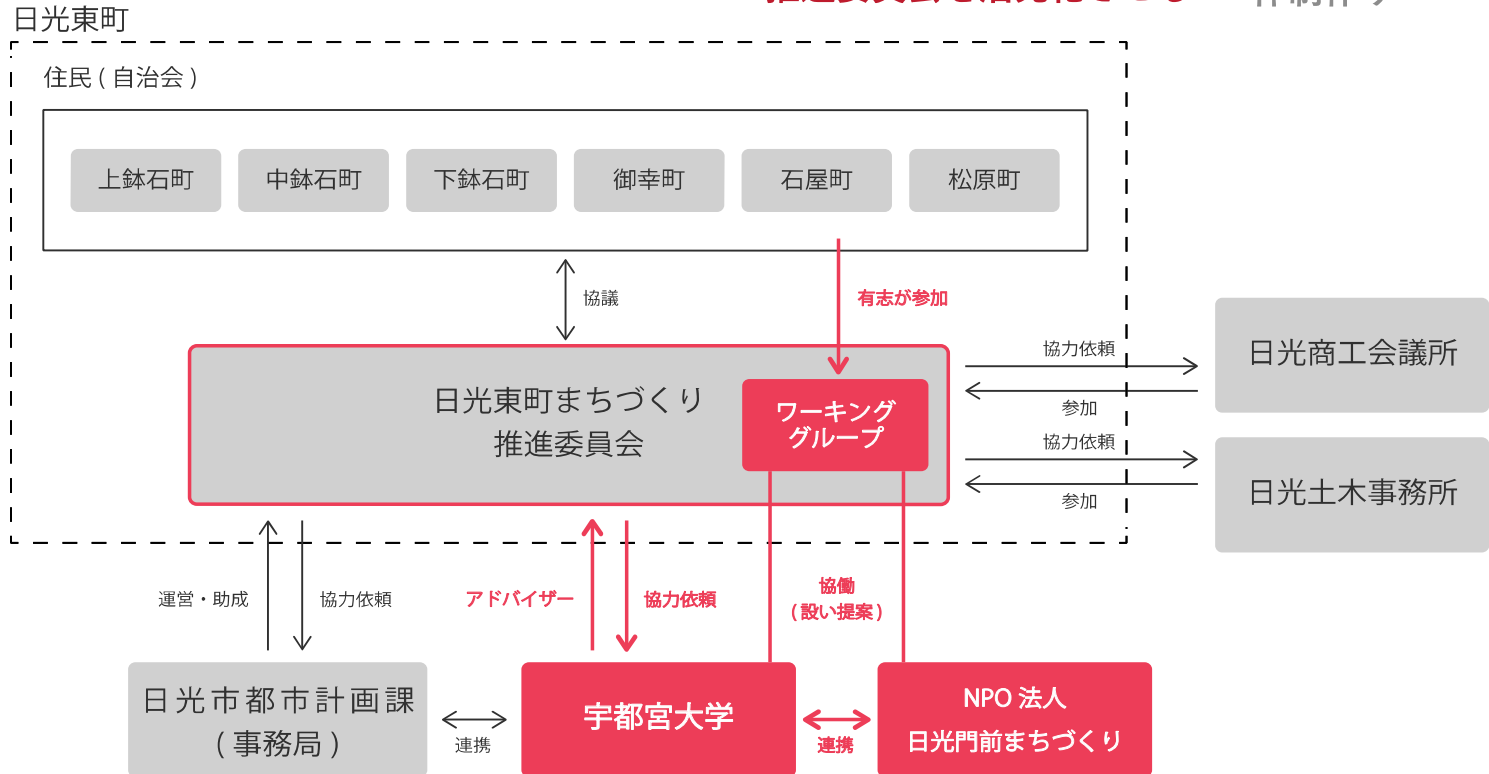
[今年度から]

①

ワーキングの立ち上げ = まちづくりの実働部隊
として活躍を開始
→ 推進委員会を活発化させる

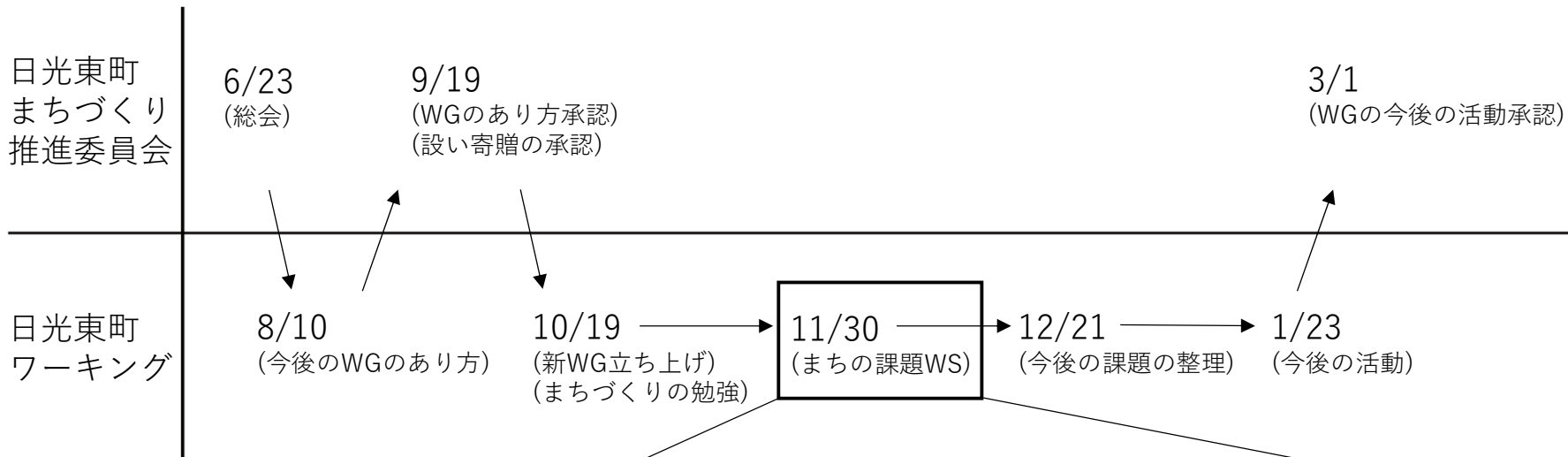
②

日光木材業協同組合
と協働の設い製作の
体制作り



■ワーキンググループの活動

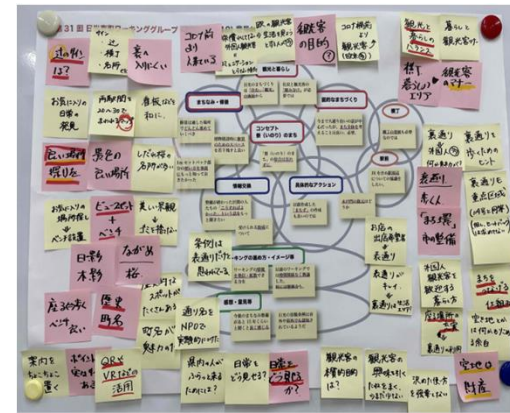
ワーキングの活動スケジュール



設いの説明をする学生



WSに参加する学生



WSで見つけた課題

■体制のデザイン(プレイヤーのネットワーク)

[以前]

まちづくり体制が
活発に活動しない



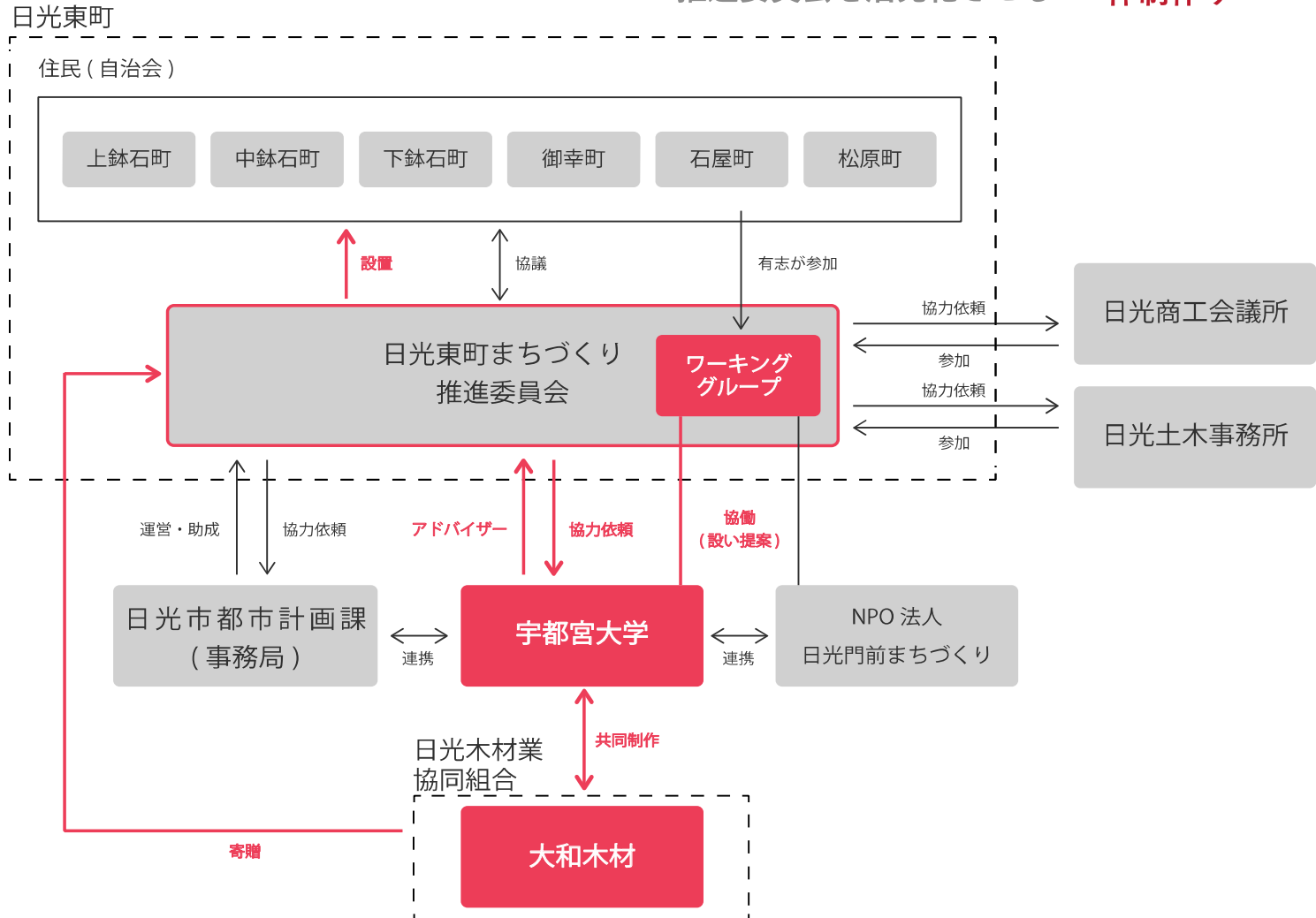
[今年度から]

①

ワーキングの立ち上げ = まちづくりの実働部隊
として活躍を開始
→ 推進委員会を活発化させる

②

日光木材業協同組合
と協働の設け製作の
体制作り



■日光木材業協同組合との設いづくり

○経緯

日光木材業協同組合よりJAS規格PRのため、日光市に
2000×240×240(mm)の日光杉材を用いた設い寄贈の申し出がある



日光木材業協同組合に加盟している地域の製材所・工務店と宇都宮
大学が協働して設いを設計、製作する

○敷地選定

製作する設い（ベンチ）の設置希望者を募る



日光街道沿いを中心に5か所の敷地が選定された



天海大僧正像公園



つづれ屋



ますだや



レストランまこ



相生町公民館

■日光木材業協同組合との設いづくり



リサーチの様子

■日光木材業協同組合との設いづくり

○設いのデザイン

コンセプト - 宿場町のまち並みを構成してきた縁台的な設いが作る、まちの縁側 -



日光上鉢石町のまち並み



長野県奈良井宿のまち並み



小上がり



揚見世



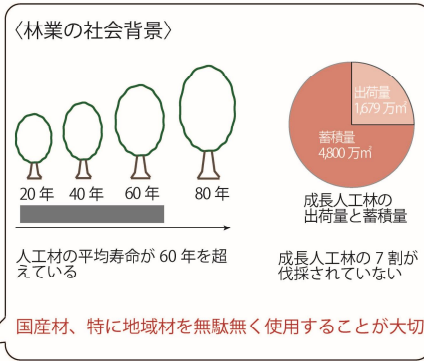
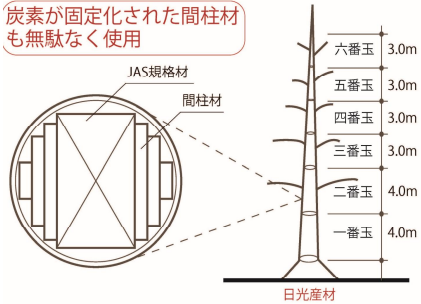
日光東町やその他の宿場町のまち並みを構成してきた要素に注目

特に、店先の縁台的な設いに注目
(人の活動を受けとめ、まち並みを作ってきた)

将来、それが連続することによって、景観の連続性をつくると共に、まちの縁側となる

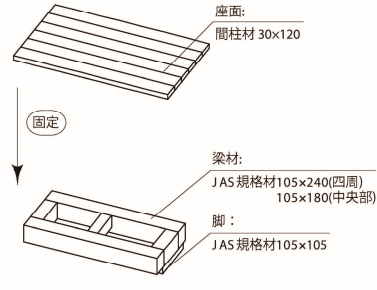
構法 - 1本の丸太から作る縁台が繋ぐまち並み -

炭素が固定化された間柱材も無駄なく使用

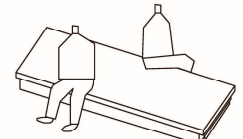


〈1〉1本の丸太から取れる JAS 規格材 間柱材の双方を無駄なく使用する

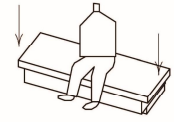
国産材、特に地域材を無駄なく使用することが大切



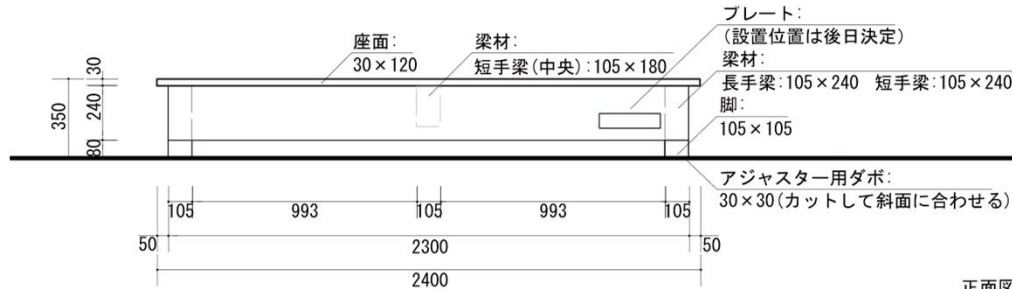
〈2〉座面（間柱材）を脚（JAS規格材）に固定



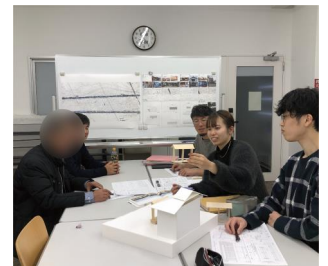
〈3〉ベンチの幅を大きくして、両側から使用可能



〈4〉ベンチの高さを抑え、くつろぎやすくする



正面図



打ち合わせの様子

■日光木材業協同組合との設いづくり

○設いの仮設置



仮設置した設い（天海大僧正像公園）



仮設置した設い（つづれ屋）



仮設置した設い（ますだや）



3月にはワーキングと社会実験として、設いの使われ方や修景に関する調査する

○これからの方向性

- ・ 設いづくりの活動を今後も続けて、日光門前の町並みを県産材でつなげていく
- ・ WGの活動を通して、まちづくりに関する設いづくり以外の様々な課題に取り組む
- ・ ワーキンググループが持続的に活動できる仕組みをつくる
(リソースの獲得、様々なメンバーを巻き込む)